

マルセイニュース 3月号

発行日 2017/3/22

株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 TEL0146-22-5123

春がきてるよ…



写真提供 浦河観光協会 中川 貢さん

春一番の福寿草の花です。枯れ草の中に鮮やかな黄色が映えますね。平田染工場さんでは、20年振りの「大漁のぼり」が染め上げられていました。依頼主は、50周年を迎えた「北海道釣魚連浦河支部・北の釣会」のみなさん。「死亡事故のない日」が、今後とも続きますように・・・という願いと共に、交通事故死0人！の500日達成を記念して浦河町に寄贈されるそうです。



ギター好きの仲間が集まった“浦河フォークソング倶楽部”5名の方々。右から、代表の吉田弘幸さん、宮内修さん、村山正敏さん、山崎充さん、中村光一さん。



応援参加(他町)のメンバーも含め全員でのオープニング風景

浦河 フォーク音楽会 2017

3月4日(土) 総合文化会館地下ミニシアター

主催: 浦河フォークソング倶楽部

後援: 浦河町教育委員会 協賛: サフランドール



おじさんたちの音楽会に100人以上！

会場は満席以上の入場者でいっぱい！初開催の「浦河フォーク音楽会2017」に行ってきた。平均年齢は参加者の皆さんと同じくらいの60歳前後の方が多かったかな？ 終始アットホームな雰囲気包まれていた会場でした。

出演者のステージの持ち時間はそれぞれ20分。井上陽水、吉田拓郎、ふきのとう、玉置浩二、アリスに松山千春など、フォーク世代にとってはとても懐かしい選曲の数々でした。

好きなことを楽しんでるのは良いですね。「ギターを始めて1年。今、とても楽しいです！」。こんな一言もキラリと光っていた、ギター好きなおじさんたちの音楽会。あったかくて、楽しくてなんだかとても良かったです。ありがとうございました。すてきな音楽祭でした♪

マックス



春一番！地面はまだ凍ってましたが・・

「灯油タンク新設工事」

灯油配送の繁忙期が終わりました。これから夏季は“暮らしのサポート事業”に力を注ぐほか、ガス設備や燃焼機器類のメンテナンスにも力を入れて頑張ります。春の気配を感じるようになったとはいえ、まだまだ風が冷たい3月2日。早速当社の若者たちが「灯油タンク新設工事」に奮闘していましたよ～。

「そうか、北海道では冬季期間は10月～3月なんですね。まだまだ3月は冬の季節、頑張ってください！」。マルセイニュースを読んでくれている神奈川県在住の方からのお手紙で、こんな応援エールをいただきました。

そうなんです。3月とはいえ、今年もドサツと20センチほど雪が降りましたね。

日中でも氷点下の日もあるまだまだ寒い中、新規就農されるいちご農家さんから灯油タンク設置の仕事をいただきました。ありがとうございます！

若者たちが奮闘しています！

天気には恵まれましたが、新しいビニールハウスの完成を待ち、辺りにはまだ雪が残る中での設置工事でした。兄弟仲良く束石のバランスを計測したり、みんなで穴掘りをする様子を仕事の途中で立ち寄り見守っていた社長です。

雪景色の中、半袖姿で快心の笑顔なのは、まだ凍結している地面をドリルで掘削したり、泥だらけになりながら工事に取り組んでいた恭平くんです。お疲れ様！凍土での工事だったので、解土の頃には再点検に出かけるそうです。



凍った地面を掘削中。ひと汗もふた汗もかいた後は、なんと半袖で姿の恭平くん



みなを見守っている社長の姿



みなを見守っている社長の姿



ホント、仲良しなんです^^

あの大震災から6年・・

地震発生時の注意点を確認しておきましょう



まず身の安全を

地震発生後の注意事項

2011年3月11日。あの日の地震と津波、そして原発事故から6年が経過しました。いまだに地震があるとドキッとしてしまいますが、LPガス使用上の注意点など、ここで改めて確認しておきましょう。



津波の高さがわかりますね。2011年3月12日朝の浦河です。

自分の身を守りましょう！

●まず、身の安全を確保してください。（棚や棚の上に載せてあるものが落ちてきたりするので、揺れが収まるのを待ちましょう。）

火の始末をしましょう！

●ガスを使用しているときは、揺れがおさまってから器具栓を閉めてください。

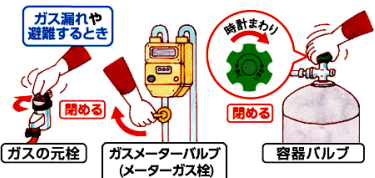
ガスを使用中に強い地震（震度5相当以上）が起きたときは、ガスメーターが自動的にガスを止めます。（ガスを止めていないときは、ガスを止める機能になっています。）

ガス使用はやめて、元栓を閉めて！

●ガス漏れやガスの臭いがするときは、ガスの使用をやめて、器具栓、ガスの元栓、ガスメーターバルブ（メーターガス栓）および容器バルブをすべて閉めて、LPガス販売店が緊急時連絡先に連絡してください。

●避難するときは、器具栓、ガスの元栓、ガスメーターバルブ（メーターガス栓）および容器バルブをすべて閉めてください。

※家屋等に被害が発生した地域では、ガス漏れや容器の点検を順次行います。点検の際にはご協力をお願い申し上げます。



揺れがおさまったら



“注文の必要”も“慌てること”もありません 「定期配送」は、任せて安心です！

ついというっかり、頼み忘れて灯油を切らしたことはありませんか？ 灯油の「定期配送」システムをご利用いただくと、そんなことが防げて安心して過ごすことができます。一度申し込んで頂ければ、お客様は残量をチェックする面倒からも解放されますよ。この機会に、マルセイの「定期配送」をご検討下さい！

今年の3月も、やっばりドカッと雪が降った日がありましたね。それでも季節は確実に春へと歩みを進めています。いよいよこの冬も終わりですね。



マルセイの
灯油の「定期配送」を
ご利用ください

さて、ここで改めて「灯油配送のシステム」をご案内させていただきます。

灯油配送には、「定期配送」と「電話注文」による配送の2種類があります。「定期配送」の便利なところは、お客様が灯油の残量チェックをする面倒から解放されること。もう、「灯油の残りはどれくらいかな？」と悩む必要も、「うっかりして灯油を切らしてしまうこと」もありません。

今からでも、次の冬からでもかまいません。今一度、マルセイの「定期配送」のご利用をご検討ください。

また、当社ではお仕事の都合で夕方6時頃でないとお帰宅できないというお客様のご相談にも応じて、大変喜ばれています。こちらも、お気軽にお問合せ下さい。



なつかしい「みどりくん」と社長

◆定期配送システム◆

【対象タンク】

＊お客様がご不在でも
配達が可能です
屋外設置のホームタンク

【サービス】

＊夏季シーズン中に
490リットルタンクの無料点検実施

【定期配送システム】

●使用量にあわせて当社で
サイクルを決めて配送します
(月1回・月2回など)

●11月から翌4月までは冬季
サイクルにて配送いたします

●5月から10月は電話注文・
もしくは夏季サイクルを
選択して配送します

【お支払方法】

現金・自動振替にて
※その他のお支払いがご希望の
場合はご相談下さい。

今年の春も 皆様のお片付けをお手伝いします！ マルセイの“暮らしのサポート”をご利用下さい

春が近づくと気になるのが、家の周りや庭にある不要物の片付け…。そして、いつの間にか少しずつ溜まってしまった要らないものの数々。そこでわたしたちの出番です！暮らしの中の小さな困りごとで、私たちでお役に立てることがあればお応えさせていただきます。どうぞお気軽にご相談ください！

実は、「今年こそ！」とわが家にも処分してしまいたい不要なモノがたくさんあります。お客様の自宅ではいかがですか？

「捨てたいモノ」の 収集運搬 ご相談ください

「前から頼もうと思っていたんだけどねー」「こんなことで電話したら申し訳ないと思ってねー」と、いまだに迷った末にお電話をいただくようですが、どうぞお気軽にご相談ください。片付けた後はほとんどの方から、「こんなにすぐ片付くなら、もっと早く頼めばよかったねえ」と喜んで言っていたことが多いですよ。

ご紹介した写真は、古くは8年以上も前の写真です。当社のパワフルな女性たちは、力のいる仕事でも頑張っています。たね。(笑)でも、最近のマルセイは、おかげさまで若者たちが大活躍！灯油の繁忙期が終わるこれからのシーズンは“暮らしのサポート事業”にも力を入れて会社を支えます。





大学のキャンパスへと向かう子どもたち、楽しそうですね^^

「子ども未来サポート事業」からの実施報告

**「大学を訪ねよう!! 2月18日(土)北翔大学、北海道博物館
これからの学びを充実したものにするために」**

子どもたちが大学を訪ねるツアーが実施されると知り、ぜひに！と教育委員会の方にレポートをお願いしました。「大学」を訪ねる機会に恵まれた子どもたちのいきいきとした笑顔がうれしいですね～。一方で、大学生にとっても「地域」と出会えるチャンスだったかも。双方良しの取り組みですね。そんな「子ども未来サポート事業」の報告をご紹介します。

「大学を訪ねよう！
これからの学びを充実
したものにするために」

世の中が情報であふれ、子どもたちも様々なメディアから情報を得ています。そんな中、小学生にとって数年後にひかえた進学と言う問題。多くの子どもたちが、自分の将来を考えはじめていると思います。

子どもたちが将来の目標を決めるためにも、より多くの体験をし、その体験から自分の好きなことを見つけていることが必要となっています。自分で自分の道を切り開いていく力を養う為に、子どもたちに検討材料を提供していかなくてはならないと考えています。その1つの材料として、今回は「大身体験」をテーマとしました。

大学ってどんなところ？

浦河町に住んでいると大学は身近にないため、小学生で大学をイメージすることは難しい状況にあります。そこで大学を訪問し、「大学で楽しい場所、大学はこんな勉強ができる」など先の目標を少しでも持つもらい、子どもたちの今後の学習や学校生活がより充実したものになることを希望し実施いたしました。

事業の内容は、「大学を訪ねよう！」と題して、町内の小中学生25名が、江別市にある北翔大学を訪ねました。浦河町では「ウ



ラガク」という事業があり、夏休み、冬休みに大学生が町内の子ども達に勉強を教えるに来てくれている縁もあり、北翔大学も受け入れを快諾してくれました。また、勉強を教えてくれたお兄さんお姉さんとの再会で、より身近な大学生からの説明と言うこともあり、参加した子どもたちも真剣に話を聞いていました。

大学生からは、大学紹介、大学の仕組み、クラブ活動など、学生が大学の紹介をスライドで説明してくれました。クラブ活動が、スポーツ・文化を含めて60団体もあること、学生が1,800名もいることに子どもたちは驚いていました。それ以上に驚いたのは、施設の広さです。案内役の学生がいなければ、元の教室まで戻って来れないくらい、複雑な階段と廊下の多さでした。

学校の施設見学が終わった後は、いよいよお待ちかねの「学生食堂体験」です。この日、営業日でなかった食堂ですが、浦河からの子どもたちのために、特別にオープンして頂きました。

北海道博物館も見学

大学を後にして、参加した大
学生と一緒に、北翔大学近くに
ある「北海道博物館」見学。初め
て見学した子どもたちも多く、
北海道の歴史や動物、文化など
に興味を示していました。特別展
で、オリンピックパラリンピック展
も開催されており、表彰台に
乗ったり、世界記録に挑戦したり
とそれぞれ楽しんでいました。



ハンバーグとエビフライのメインが2つある定食で、初めて体験する学校での食堂の雰囲気にも子ども達もドキドキしながら、学食を楽しんでいました。次来るときは、選んで食べたいなどの声も聞かれ、大学の魅力のひとつとなっていました。

今回のこの事業を実施し、子どもたちの意見は、皆、楽しかった、また行きたいと言った声が多く聞かれました。

大学へ行きたいですと言う質問には、楽しそうだから行きたいや自分の好きなことを勉強したいなどの声も聞かれ、実施した甲斐がありました。



この未来を背負う子どもたちが、自分の道を切り開いて成長するため、私たち大人は、子どもたちと向き合い、生きる力を体得させ、環境作りをしなければならぬと改めて感じました。夢や希望にあふれる子どもたちをみんなで育てましよう!!

浦河町教育委員会 民部宏治



この明るい笑顔で、未来を切り開いてくれますように！



うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会 地域デザインカフェ Vol.44

期間限定リターン中！

「ソムリエがやってきた！」

カフェマスター：小松 篤さん

2月23日(木) 総合文化会館 19:00～21:00 参加費500円



ソムリエの小松篤さんをお迎えしての、第44回地域デザインカフェ。今回のカフェマスターもすごくいいお話でした。小松さんの話は、いわゆる上手な話ではないんです。でも、そこがよかったです。若者が自分の仕事について一生懸命に話す姿とその内容に感銘を受けました。

「サービスは自分を活かせる仕事です」。自分だつたら、どういうサービスができるか、するか、したいかを考えながら真剣に仕事を続ける

本格的に接客を学びたいと思った小松さんは、札幌でも指折りのレストランに行き「フロアで働かせてください！」と直談判。料理長から「明日から来い」とOKをもらって以来、給仕サービスとしての修行の日々が始まりました。

サービスは自分を活かせる仕事

小松さんは、幼少期を浦河で過ごしました。両親の仕事の関係で札幌に住むことになり、浦河を離れましたが、今でも当地に足を運んでくれています。うれしいですね。高校卒業後、菓子職人から飲食の世界に入ります。が、カフェでの経験で接客の面白さに目覚めたといいます。「最初はお客様とにも話が出来なくて悩みました。でも次第に接客の面白さや喜びに気づいていきました。」



21才でレストランで働き始めてしばらくは、怒られっぱなしだったと言います。「作業はちゃんとできているのに何故怒られるのか、最初は分かりませんでした。」小松さんのお話のなか

中、「ソムリエにならないの？」というお客様からの声に後押しされて猛勉強。見事ソムリエの資格を取得し、以降レストランでのサービスの仕事一筋に働いてきました。昨年までは上川町にある「フラテツロ・ディ・ミクニ」で4年間、ソムリエとしてサービスを担当。そこでの経験の中の、まちづくりやもてなしに対する民間と役所の考え方の違いを具体的にエピソードで話してくれたところは、なかなか面白くて勉強になりました。

仕事は「作業」ではない

で、何度もこの「作業」という表現が出てきました。が、「作業」として働いているうちは仕事は面白くない。そのことにあるとき気づいたそうです。

以来、「作業」ではなく、正解のないサービスの仕事を自分なりに真摯に探求して来た姿勢がとても伝わってきたお話でした。

「この業界は給料も高くないし労働条件も良くはないです。この金額だからこのくらいの仕事、というのが作業だと思ふ。作業のところで辞めちゃうから仕事面白くない。だけど、そこで逃げて、また次で逃げても仕方がない。僕はそう思います。」

仕事は面白いと迷いなく話す若者に出会えて、ほんとうに気持ちのいいひとときでした。

うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会

小山 直



2月19日、浜町通りを歩いて当日をイメージ。寒い中を、集まった皆さんと一緒に使えそうな空き店舗などを散策して歩きました。

うらフェスマーケット出店者募集！

浜町通り商店街で1日限りのお店をひらきませんか？

6月4日(日)に野外ステージが登場する浜町通り商店街の歩行者天国で、あなたの得意をお店にしてみませんか？「こんな事できますか？」「興味はあるけど…」など、『うらフェスマーケット』に興味のある方は、お気軽にご相談、お問い合わせ下さい。ぜひ、一緒に楽しいマーケットを作りましょう～！

【連絡先】うらフェス実行委員 山口このみ 携帯 090-7659-0494 メール urarapetsu@gmail.com

町民参加型のおまつり「うらフェス」【出店/出展料金】



赤い所が歩行者天国になる予定の浜町通りです。

内容	出店/出店料	スペース	備考
出店/出展ブース	1,000円	2m×2m	
飲食店ブース	12,000円 保険所営業許可 申請手数料含む	5.4m×3.6m	テント・机2台 椅子2台含む

*お申込み多数の場合は先着順です。

*イベントの主旨に反する場合はお断りさせていただきます。

ハンドメイドが得意なママさん、作品販売に出店しませんか？一緒に製作ワークショップがあつてもステキですね。茶道や華道、お習字など、趣味や特技を活かしたワークショップや作品展示なども大歓迎です！盆栽ワークショップなんかも面白そうですね。おじいちゃん、おばあちゃんも参加してくれたらうんと楽しそう！

『うらフェスマーケット』に出店したい方、お問い合わせください！

最近読んだ本の中より…



『日本人のひたむきな生き方』

松本 創 著(1970年～) 発行所 株式会社講談社



グローバル人材だ、イノベーションだ、はたまた地方創成だ、いや地方消滅だと声高なスローガンや警鐘があふれている今。そんな浮き足だった言葉と現実のすき間を埋めていくのは、いつだって、それぞれの土地で地に足をつけて、日常を積み重ねているふつうの人たちしかない。(あとがきより)



2002年、「アフリカンコンサート ジャナグルin浦河」が文化ホールで行われました。「九十九大学」でのワークショップも喜んでいただいたそうです。

年中無休24時間営業の保育所を35年も前に開いた女性。動物が苦手な船にも乗れないイルカの言語の研究者。福島県双葉郡で米作りを再生させた農家の方。継ぎたくもなかった酒蔵を再建して、ヨーロッパで最高賞を獲得する日本酒をつくる方…。著者の松本さんは、「どの人も自分のしてきた仕事を声高に誇ったり、大げさに苦労を語ったりしなかった」と記していますが、本書の

どの人も 大げさに 苦労を語らない

本書は、7人の「ふつうの人」のルポルタージュ(著者の言葉です。しかし一読すると、これはふつうの人じゃないよと思ってしまう)。ただ共通しているのは、みなさん自分をすごいと思っていないこと。どこかの時点で自分はこの道を頑張るしかない、と思い決めて歩んできたところが同じです。

高橋さんがまず取り組んだのは、若くして亡くなったミュージシャンの墓を整えることでした。30人ほどいたといいますが、次に彼らの追悼コンサートを開きました。このような活動から現地の人々との信頼が築かれていきました。

現地の人々との 信頼を築く

魅力はそんなところにあると思います。短いコラムでどなたを紹介しようかと迷うのですが、小樽市出身の音楽プロデューサー高橋朋子さんを紹介します。

高橋さんは、アフリカのジンバブエに住んでいます。今から約30年前に、単身移住しました。ボブ・マーリーの音楽との出会いが、高橋さんをアフリカへと導きますが、行つてすぐに、現地のミュージシャンの劣悪な契約条件を知ることになります。白人が経営するレコード会社は、印税などの報酬を現地のミュージシャンにまともに払っていませんでした。仲介した高橋さんへの現地レコード会社のさまざまな嫌がらせが、彼女に音楽制作会社「ジャナグル設立」と向かわせました。

「人はそうやって不安を捏造するんですよ。それで何もしないつて、つまらないでしょ。そんなありもしない不安を捏造しなくたって、世界には過酷な現実を生きている人がいっぱいいるんだよ。日本人でだけで、これ以上ないくらい恵まれてるんだからさ。」

わかる。でも、わたしは今日も頭に不安がたくさん(笑)。かなわなないなあ、と思いつつも読んで爽快な気持ちになりました。

「行き詰まるとなぜだかうまい具合に人に出会うのよ。いいタイミングでいい人たちに会って、問題が解決していく。恵まれてるんだね。だから、もうやめようと思ったことは一度もないの。だいたいさ、私なんかづくに大したことやってないんだから取材するような話なんか何もないよ。」

高橋さんはこう言いました。それでもしつこく不安や迷いはなかったのかと訊ねる松本さんに、高橋さんは言います。

行き詰ると いい人に出会う

ト・センターは完成。設立まで17年がかかりました。

著者の松本さんは「僕ならそうだけど、投げ出したくなりませんか?」とインタビューの中で訊ねます。「ないね。」高橋さんは即答しました。



町の映画館・大黒座へ行こう! 話題作品が、続々上映中です!

こんな暗い話を映画にして誰が見る?と言われながらも製作をあきらめなかったスコセッシ監督は、「わたしはエンドウのこの本とともに生きてきました」と言っています。同時代を生きた名匠が生涯をかけた映画を、リアルタイムで自分の町で観られるのは誇りであり、幸せです。

江戸時代、キリスト教が弾圧されていたころのキリシタンと宣教師の物語。苛烈を極める拷問に命を落とす人たちがたくさんいました。しかし、その拷問の前で信仰を捨てた者もやはりいました。『沈黙』は、そのような信念を貫き通せなかった人たちの描いた遠藤周作さんの小説で、アメリカで今回映画化されました。

遠藤周作さんは、戦後の高度成長期にもっとも人気があった作家の一人でした。狐狸庵(こりあん)先生と名乗り、軽妙なエッセイ集をたくさん出す売れっ子中の売れっ子作家でした。わたしは遠藤さんの狐狸庵モノより、北杜夫のドクトルマンボウの方が好きでしたが、遠藤さんがマジメに書いた小説『沈黙』には衝撃を受けました。自分ならどうする? やつぱりキチジローのように逃げ出すだろうとか色々と思いましたが、なんと自分も、「踏むがいい」という声が聞こえるくらゐ読んでたときのこと、忘れられません。

江戸時代、キリスト教が弾圧されていたころのキリシタンと宣教師の物語。苛烈を極める拷問に命を落とす人たちがたくさんいました。しかし、その拷問の前で信仰を捨てた者もやはりいました。『沈黙』は、そのような信念を貫き通せなかった人たちの描いた遠藤周作さんの小説で、アメリカで今回映画化されました。



『沈黙 サイレンス』
4/15(土)~28(金)
1日3回上映
10時・1時30分・7時



2種類のパスタを盛り付けて、野菜をトッピング♪



ガスでおいしくクッキング

キャベツとベーコンのパスタ

「インスタントラーメンの巨匠」と自負する社長が、数あるパスタの中から選んで初挑戦したこのパスタ。「もっとスープをたっぷりにした方が良かったのか」と少々がっかりしていましたが…。いいえ社長。みんなも完食～♪十分に美味しいパスタでしたよ、ご馳走様でした^^



●材料（2人前）

■ キャベツとベーコンのパスタ

スパゲッティ 200g
キャベツ 4枚くらい
ベーコン 2～3枚
バター 大さじ3～4
コンソメ 小さじ1程度
こしょう 少々
お好みで 粒マスタード少々



やわらかくて甘いです！
これからが
「春キャベツ」の
おいしい季節ですよ～。

●作り方（参照 ナナビさんのレシピ）

- 1、キャベツはお好みの大きさに手でちぎり、色よくさっとゆで、ベーコンは1cmくらいに切っておく。
- 2、パスタを表示に従ってゆでます。
- 3、バターとベーコンをフライパンに入れて火にかけ、バターが半分くらい溶けたら、1でゆでておいたキャベツを加えて炒めます。（炒めすぎないように）
- 4、大さじ6くらいのパスタのゆで汁とコンソメを加え、こしょうで味を調えます。
- 5、スパゲッティが茹であがったら、3のフライパンに入れてひと混ぜしてお皿に盛ります。（粒マスタードの風味がアクセントになります。お好みで、お皿に添えて下さい）



社長、がんばってるなあ・・・



今月の★は、いくつ？

この日は休日だった社長でしたが、料理のために出社。パスタは茹で加減が大切とあって、みんなが外仕事から帰ってきたのを見計らってから調理開始！レシピに忠実に作ろうとする社長でしたがなんだか戸惑っている様子。どうやら用意したレシピが、自分のイメージしていたでき上がりとは少し違っていたようです。

おまけに横では「キャベツと桜エビも合うよ～^^」と、気ままに違う味のパスタを作り始めたマックス。「ただでも大変なのに、オレを混乱させないでくれ・・・」と困惑していた社長。それでも必死でパスタを仕上げようとしている社長と、その様子を見守る若者たち。その後ろからは、「今日のは、すでに終わったね・・・」とばわふるさんが一言。「さて、どうだ？」誰よりも先に試食をして少しがっかりしていた社長でしたが、スープパスタ風に仕上げていると★★★★でしたよ～^^



試食した人	今日の料理は★いくつ？（最高★3個）
村下社長 (2.5)	★★★★ 調理風景が面白かったですね～。（笑）
ばわふる (2.2)	★★★ 社長の作ったパスタは、スープパスタで食べたかったなあ～。それだと点も高かったかな？でも、おいしかったよ^^
恭平くん (2.5)	★★★★ 意外にボリュームもあっておいしいです^^
圭佑くん (2.5)	★★★★ 2種類の味を楽しめて良かったです。
マックス (3.0)	★★★★ 社長が頑張っていたから、最高点だよ！おまけのパスタも、美味しかったかな？
社長 (2.0)	★★★ 色々改善点がみつかったね。何より一品だけ作ることが大事なのに、脇でうるさいのがいたらだめだな。疲れたし、俺、このコンサルタントとはもう一緒に作りたくないな。

社長のちよっと長いコラム

時代は変わる

あの頃はなんとなく肩身が狭かったなあ。今となつてはそんなふうに思い出されますが、あの頃とは、2000年からの10年くらいの期間のことです。それが6年前まで続いていました。なにを肩身が狭いと感じていたのか。燃料屋であることを。化石燃料をたくさん売らなければいけない仕事であることです。

あのころは、こんなふうでしたよ。地球温暖化を食い止めるために、二酸化炭素の排出量を大幅に削減しなければならぬ。そのために世界中が力を合わせよう。そのためには、なんといつても化石燃料の使用を減らしていこう。悪いのは、石油だ。地球温暖化のいわば戦犯だ。エネルギー源としては、これをできるだけ削減する。化石燃料の代替はなにかというと、電気だ。石炭を使う火力はよろしくないから、やつぱり原子力だ。原発はコストが安いし絶対に事故は起きない。原発こそが「グリーン」なエネルギーだ…。

人間に「絶対」なんてない

正直に告白します。燃料屋の社長であるわたしでさえも、こういう考えに若干傾きかけていました。だって化石燃料が二酸化炭素を排出するのは事実ですから。長年お付き合いいただいたお客様が、ガスや灯油から電気に乗り換えていかれるのを何度も経験しましたが、それも一理あ

ることだと内心は思っていました。俺の商売は人間にも北極のクマさんにもよくないのかなあ、と後ろめたい気持ちが出ていたのです。

6年前に一変しました。東日本大震災と福島原発の事故によってです。絶対に起きないはずだった事故が起き、収束まで少なくとも数十年かかることがわかっていました。莫大なお金もかかります。何より人間が考えたりつくるものに「絶対」なんてないという当たり前のことがわかりました。オルタナティブという言葉がありますが、「代替」という意味です。エネルギー源を一つにするのではなく、複数にしておく方が「何か」のときに役に立つというのを、今では家を建てたり買う消費者もよく分かっているという話をなんども聞いています。いまは一般家庭のエネルギーでも「代替」を備える時代です。

トラック輸送は限界に来ている

JR日高線について考えるとき、わたしは6年前のことを思い出すのです。乗る人の少ない赤字の鉄道を廃止して、コストの低いバスに転換するという考えは、たしかに合理性があり反論しづらく見えます。でも、この先なんて誰にもはつきりとは分かりません。最近の新聞や雑誌は、さかんに物流の危機的状況を集めているではありませんか。慢性的な運転手不足と長時間労働に、現場は悲鳴を上げているといっています。「物流が崩壊する」という特集記事もありました。自動車輸送の現場はもう目一杯で、逆にJR貨物は黒字転換し、「見込の案件がまだ100件ある」という記事も目にしました。わたしは住民一人一人も、今が考えどきです。鉄路というオルタナティブ（代替）を今捨てるべきでない、わたしは思います。

さのぱわふる日記



「開いた口が塞がらない」「呆れて物も言えない」。学習しないというか…こういう表現が相応しい出来事です。土曜日の夕方。さくもう閉めて帰ろうかという時に、社長の携帯が鳴り、「様子（マックスさんの名前）なんだけど、又、車のバッテリーをあげたらしい！」と呆れ顔で私に訴えかける社長。いつも優しい社長ですが今回ばかりは「車に道具を積んだままだから、誰かに手を振って助けてもらえ」と言つて電話を切りました。「あらっ、道具を積んでいたの？」と聞くので、ついこの間もやっぱばかりだからね。そんなに経っていないから。それにしても、これで三回目ですよ。しかも同じ場所ですよ。ありえない…と二人で呆れました。



「さく助けに行くか」と社長が言うので、このおバカさをネタにしないでいいられないと思ひスクープ写真を撮りに現場へ会社を出て間もなく社長から電話が入り、「ムコ殿が通り、助けてもらえみたいだわ」と。ムコ殿に助けてもらっている写真を撮らなくてはと直行。現場に着すると二人でやつてるやつ。もちろん私が近くに来ていて盗撮しているなんて思ひもしない二人。でも、盗撮している私の姿は、かなり怪しい人だったと思います。しゃがみこんで壁に隠れ離れた二人を撮る私。その横を駐車場から出る車の人は不思議そうに見て通り過ぎる…。

後日、ニュースの料理の試食の時にスクープ写真をみんなに見せて笑いにし、若者達も私も一度もバッテリーを上げたことはない。エンジンを止めた時にブザーが鳴りますよね。などなどマックスさんいじり。更に新事実！三回目と思っていたら、なんと！四回目だとの事。そのうちの一人は誰にも助けてもらえず、車屋さんに出動してもらったらしい…普通、これだけ同じことをすると意識して気をつけますよね。



いやーこの、おばちゃんは大物ですね。さすがです。ある意味スゴイ！五回目があった時もご報告いたします。ないことを祈りますが…皆様もお気をつけ下さいね。



発行 株式会社マルセイ

灯油・プロパンガス販売・機器修理

廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

冬季期間（10月～3月）定休日：日曜・祝祭日 営業時間 8:30～6:00 土曜3:00



編集 おはなし家（マックス）

発行部数 3400部

【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com

【マルセイブログ】「マルセイブログ」で検索してください

〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3

TEL 0146-22-5123